

未来へ伝えたい 学会の宝物

Discover Your Treasure in IEICE
for the Future



編集理事 宮本 裕

編集理事として学会活動に携わり、はや1年以上がたちました。学会全体の様々な委員会に出席している中で、私が思う本会の普遍的な価値=宝物について少しお話してみたいと思います。

私事ですが、高所恐怖症気味のくせに高い所から俯瞰する山々の景色が好きで、今年の夏休みに中学生の子供と長野県の乗鞍に行ってきました。乗鞍は、標高3,000m級の頂上近くまでバスで誰でも手軽にアクセスできる日本で唯一の場所だそうです。頂上付近の豊平という場所で初めて目にしたのは、一面に咲き乱れる高山植物のお花畑でした。乗鞍には35年前に修学旅行で訪れましたが、自分の子供もいつの間にか同じ年齢になっていました。しばらくの間、一緒にそのすばらしい景色に静かに見とれていましたが、ふと見回すと多くの外国人観光客もその風景を楽しんでいました。氷河期からの厳しい気候変動を乗り越えて生き抜いてきた自然の美しさは、誰の美意識にも響く普遍的な価値があり、日本の宝物として未来の世代に伝えていくべきものと思いました。

さて、本題の私が思う本会の宝物についてです。本会は、御存じのとおり、ソサイエティ・グループの傘下に100以上の広範な専門分野を網羅した研究専門委員会・時限研究専門委員会があります。最近では、グローバルな競争時代に対応するべく、各ソサイエティでは、英文論文誌の充実による世界に向けたタイムリーな情報発信、国際的に開かれた学会活動を通じた会員サービス増進等、今後の学会の発展・価値向上に鋭意取り組んでいます。

一方で、国内で開催される研究会（&懇親会）では、グローバルな研究活動やビジネス活動を通して豊富な経験を積んだ産学官の多くの委員がほぼボランティアで多数参加しています。一つの組織や会社の論理等に縛られることなく、母国語の日本語で自由に発表、発言、議論することで、その国固有の背景・文化が自然に織り込まれ、深い意識での合意が形成されます。研究会の技報や各種論文誌では、その分野の母国語としての見識・美意識が文字となり、招待論文・チュートリアル論文などとして集大成され、これまで紙の媒体として記録され続けてきました。本会が世界に対して普遍的な価値として存在感を発揮できる源泉の一つは、研究会活動を通して母国語で長年議論し積み上げ育てられてきた各技術分野固有の見識や美意識にあるのではないかと考えています。最近研究会に参加しながら、母国語での研究会活動でのつながりが、グローバルに通用する本会の見識・美意識のインキュベータなのではと改めて感じました。

本会会員の皆さんが、普遍的な宝物を共有しお互いにその恩恵をもっと享受するには、分野を超えた会員に個人・研究会の持つ宝物を見える形にマッピングし、アクセスしやすくすることが大事になってくるでしょう。これまでの学会関係各位の尽力が実り、今年から、会誌の電子化や本会の持つ論文・学会発表等の文献情報を自在に検索可能な検索システム I-Scover (IEICE Knowledge Discovery) の一般公開が始まりました。将来、このプラットフォームが持つメタ情報検索機能を駆使して、日本語のみならず他の母国語でもその国の宝物が自在に検索できるようになり、英語以外の母国語を持つ国々への価値の共有が期待されています。また、この号が会員の皆様に届く頃には、総合大会等でのチュートリアル講演の Web 映像配信も始まっていると思います。

グローバル化の時代だからこそ、自らの学会の内側にある宝物を守り発展させることも考えながら、その恩恵をフル活用した会員サービスの向上に向けて、今後とも少しでも貢献したいと考えています。